

基本施策H1 市民が主役のまちづくりを進めます

主管課：自治振興課

個別施策

H1-1 地域コミュニティの活性化を促進します

H1-2 市民活動団体への支援の充実を図ります

ア 施策の目的

市民が、それぞれの役割を果たしながら、連携してまちづくりを進めている。

イ 基本施策の評価

B c 目標をほぼ達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2	
地域活動や市民活動 への参加意向割合	82.8% (26年度)	↑	目標値	84.8	85.8	86.8	87.8	88.8
		実績値	78.7	83.8	84.6			
		達成率	92.8%	97.7%	97.5%			
自治会加入率	70.3% (27年度)	↑	目標値	70.4	70.5	70.6	70.7	70.8
		実績値	68.7	69.6	69.4			
		達成率	97.6%	98.7%	98.3%			

エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に関する意見

なし

カ 審議会における施策推進に向けた提案

- 自治会加入率の低下は市に原因があるのではないかと。自治会が配布する広報ながさきは自治会に入らなくても手に入る。自治会を通して配布していたごみ袋は、個人が有料で購入することとなった。新築マンションの建設時に、市からのアクションを行う必要がある。地域だけで自治会加入促進を進めることは限界がある。
- 「自治会加入のメリットということではなく、安心して地域で暮らすために自治会は大切なものであること」という自治会の意義については同感である。自治会加入促進にあたっては、自治会に加入するメリットを訴えるのではなく、その地域に住んでいる長崎市民であれば当然加入するものであると訴えていくことが必要だと思う。

- 自治会長をしていた。市の施設には「ふれあいセンター」、「にこにこセンター」、「地域センター」など様々な行政拠点があるが、手続きや困りごとがワンストップで解決できる場所やしくみが考えられないか。
- 自治会役員の高齢化が進んでいる。役員は「なんでもやってくれる」という住民の思いがあり、非常に負担感がある。高齢化が進む中、役員等の負担軽減の巧妙な手立てがないだろうか。
- ゴミステーションの掃除や管理は自治会で行うが、自治会に加入していない住民も利用できるため、ゴミステーションの利用について、自治会加入を条件とすることはできないか。
- 自治会加入者と非加入者との差別化をゴミ袋の購入金額に反映できないものか。
- 自治会に入っただけのメリットを求めてはいけないと言うが、苦勞などデメリットの方が多い中、地域との連携を求めない（災害発生時に避難所を利用せずに車内等に避難する人など）若い世代もいるので非常に難しい問題だと思う。
- 自治会への強制加入はできないが、ゴミ袋や広報紙・市民サービスで差別化できるものがあると思う。反面、自分たちの地域は自分たちで住みよくする意識をどのように伝え、加入してもらうかは非常に難しいと感じる。自治会に加入することで役回りなど大変なことは多いが、組織に育ててもらうことも一つの意義・財産になるのではないかと思う。

キ 次期総合計画の策定に向けた意見

- 特に若い人の自治会加入率が低いと思うが、まずはSNSなどによる情報提供が必要ではないか。また、なぜ加入しないのかという理由を把握することも大切ではないか。今の若い人の考え方を知り、それに合わせた加入促進を行うことが必要だと考える。
- 市民活動についてはそれぞれの活動の難しいところや上手くいっていない面などを捉えた支援を検討すると活性化していくのではないか。
- 退職した高齢者は今後も相当数増えていくが、生きがいを持って過ごせるように、活動の場をつくるなど有効活用についても考えていただきたい。
- 地域コミュニティを支えるしくみを地域の実情に応じて地域と行政が協働して進めている。成果指標として地域コミュニティ連絡協議会の組織率等を設定してはどうか。